



双子・三つ子父親アンケート

2020年12月18日～2021年1月10日の23日間で、216人の双子・三つ子パパからアンケートご回答いただきました。ご協力いただいたパパさんたち本当にありがとうございました。

このアンケートは、ある多胎家庭向けアンケートが実施されたときに、「父親は対象ではないんだね」という双子パパのつぶやきがきっかけとなり、作成したものです。豊田市のみつごちゃんの事件をきっかけに、多胎児を持つ母親の置かれた状況や悩みは少しずつ社会に伝わるようになってきました。

しかし父親のおかれている状況・思いについては、まだまだ表に出てきていません。父親目線で答えられるように作成したアンケートです。たくさんの方の自由記述がありましたので、そちらもすべて公表いたします。

特定非営利活動法人つなげる 多胎パパアンケート実行委員会

きよこ、うねきち、あさみ、なかはら

<有効回答数：216人>

Q1. 回答したパパたちの年齢

20代：14人 30代：132人 40代：65人 50代以上：4人

Q2. 双子の年齢

産後6か月未満：41人 産後6～12か月：41人 1才：48人

2才：18人 3才：14人 4才：16人 5才：13人

6才（未就学児）：4人 小学生：20人 中学生以上：0人

30-40歳代を中心とした、1歳以下のお子様をお持ちのパパに、多く回答をいただきました。

そして、50%を超える自由記述欄への回答をもらいました。さらに、40%近くの方が、今後の活動協力に対して、好意的なリアクションをいただきました。

Q 3. パパ・ママの就業状況（現在の）

		ママの就業状況				
		フルタイム	パートタイム	休職中	専業主婦	無回答
就業 状況 の パ パ	会社員	29 (13.4%)	32 (14.8%)	61 (28.2%)	61 (28.2%)	1 (0.5%)
	自営 個人事業	6 (2.8%)	4 (1.9%)	12 (5.6%)	8 (3.7%)	-
	専業主夫 学生、求職中	-	-	-	1 (0.5%)	-
	無回答	-	-	-	-	1 (0.5%)

Q 4. パパの育児休暇の取得状況

		育児を取得しましたか？			
		取得した	取得中	取得予定あり	取得していない
就業 状況 の パ パ	会社員	52 (24.1%)	8 (3.7%)	4 (1.9%)	120 (55.6%)
	自営 個人事業	2 (0.9%)	-	1 (0.5%)	27 (12.5%)
	専業主夫 学生、求職中	-	1 (0.5%)	-	-
	無回答	-	-	-	1 (0.5%)

Q 5. 職場の育児理解と育児休暇取得状況（会社員と答えた人：184名が対象）

		育児を取得しましたか？			
		取得した	取得中	取得予定あり	取得していない
育児 理解 の 職 場	理解がある	39 (21.2%)	7 (3.8%)	4 (2.2%)	74 (40.2%)
	理解がない	7 (3.8%)	1 (0.5%)	-	25 (13.6%)
	無回答	1 (0.5%)	-	-	1 (0.5%)
	そのほか	5 (2.7%)	-	-	20 (10.9%)

85%の方が、会社勤めのパパでした。また、お子様が1歳以下の方が多くもあって、パートナーであるママの就業状況は、休職中+専業主婦という方が、60%近くとなっています。

職場の育児理解が、60%を超えている一方で、「育児休暇を取得していない」も60%を超えています。会社の方針としては、育児を推奨していても、取得しづらい環境下は依然と続いていることが見受けられる結果が出ています。

Q6. 家庭(家事・育児)に関わる時間があれば、どんなことをしたいですか？（複数回答）

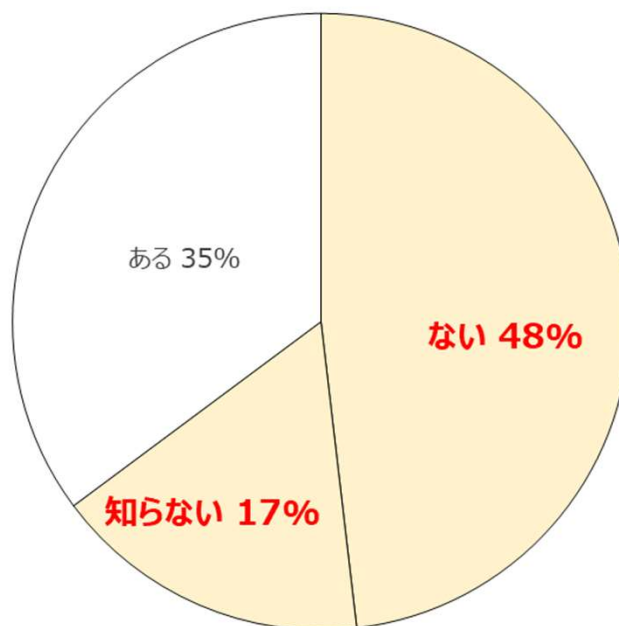
項目	回答数
子どもと遊ぶ	195
子どもの風呂	191
おむつ替え	176
買い物	172
食事の片づけ	164
子の食事介助	160
寝かしつけ	157
授乳（ミルク）	147
洗濯物の片づけ	144
洗濯	143

項目	回答数
子どもの送迎	135
子の予防接種	134
小児科受診	132
夜泣きの対応	125
料理	120
子の健康診断	120
夜間のおむつ替え	119
子の学習支援	116
病気の子の看護	115
夜間の授乳	96
そのほか	15

パパも家事や育児に参加する時間が十分にあれば、いろんなシーンで役割を担分ければならないという意識が見えてくる回答結果です。

一方で、大半の方が育児休暇を取得できておらず（Q5）、「パートナーの体が不安」と回答（Q8）された方が半数を超える中で、社会資源・サービスの活用されたことがないという結果も出ている。ここには、「経済的な不安」という回答も、要因に挙げられるかもしれません。

Q7. 自治体の支援制度やベビーシッター、家事ヘルパーなど社会資源やサービスを使っていますか？
（単一回答）



Q8. 双子・三つ子妊娠が判明した時の気持ち（複数回答）

父親になれることの喜び	:	116人（53.7%）
一度にふたり以上の家族が増えて嬉しい	:	115人（53.2%）
パートナーの体が持つか心配	:	123人（56.9%）
無事に生まれてくるだろうか	:	152人（70.4%）
自分に育てられるだろうか	:	81人（37.5%）
経済的な不安	:	100人（46.3%）
出産育児について職場に理解が得られるか不安	:	31人（14.4%）
そのほか	:	32人（14.8%）

「そのほか」を選択した方の自由記述の一部抜粋

「双子妊娠を知ったときは嬉しい気持ちもちろんあったが、上に一人娘がおり、もう1人で4人家族という計画だったところが狂ってしまったためどうなるのかという不安もあった。また安定期が無いということなど無事に産まれてくれるか、また母体についても心配があった。」

「まずはびっくり、その一言に尽きます。その次は、楽しみ。双子なんて、そうそう恵まれるものではないし、どうせなら徹底的に双子育児をやってみたいという期待感です。一方で、妻の多胎妊娠の身体的な負担は気になりました。」

「双子妊娠の前に、一度流産を経験していたため順調に育ってくれるか心配だった。流産した時は妻も精神的なショックも大きかったため、双子の妊娠が分かったときには、本当に嬉しかった。まるで、流産した子が戻って来てくれたのではと思った。」

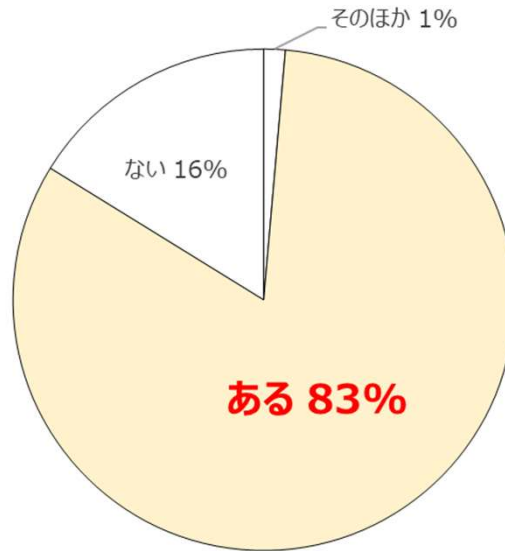
「双子とわかった時に自分も双子(二卵生)だったので、双子から双子が産まれるのか?!とビックリした(子どもはMD)双子育児がいかにか大変か知っていたので、余計に不安だった」

「職場から育児への理解はされても、役職、仕事の量、責任が減るわけでは無い。いかにして自身と上司部下をコントロールして定時内に収められるかがものすごく不安だった。」

「出産に対する理解が足りなかったのもあり、純粋に嬉しい気持ちのみでした。その後、出産のこと、多胎のことを学んでいくうちに不安も出てきました。」

「個人事業なので、ワーク・ライフ・バランスをうまく保てるか」

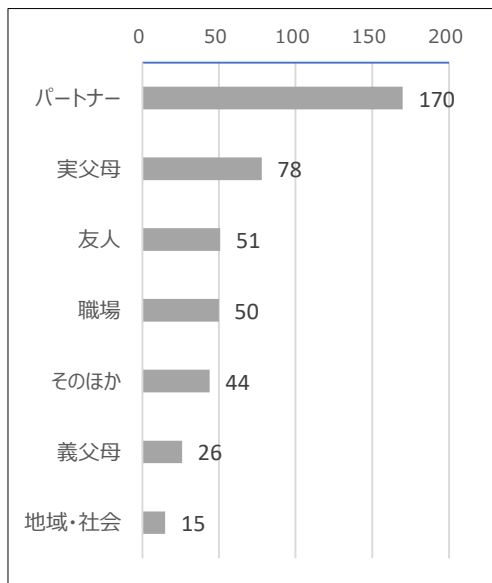
Q9. 双子・三つ子の誕生・育児において悩みを感じることがありますか(ありましたか) (単一回答)



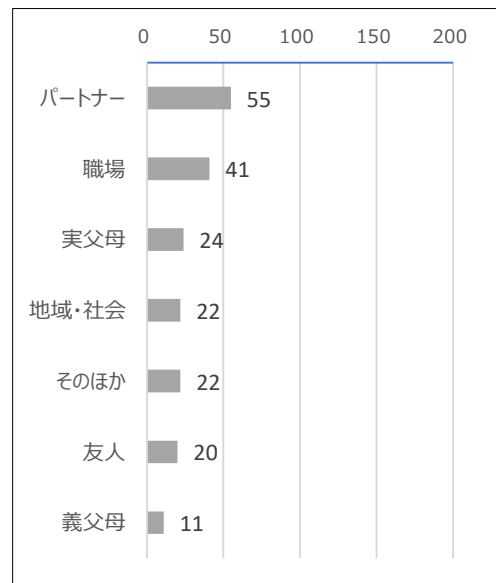
「そのほか」を選択した方の自由記述

「手がかかる時期が過ぎたので現時点では、悩むほどのことはなくなっている。1歳、2歳ころには沢山ありましたが、今では忘れています。」
 「初めての事なのでよく分からなかった。」
 「大学生になったとき、経済的に支えてやれるのか不安。」

Q10. 父親としての悩みを相談できる相手はいますか？ (複数回答)



Q11. 父親としての悩みを理解してもらいたい相手は誰ですか？ (複数回答)



双子・三つ子育児において、悩みを感じている方は80%以上です。悩みを相談できる相手は、基本的にパートナーであり、なかなか外のつながりの中で、相談がづらい状況が見受けられます。双子・三つ子などの多胎は、全分娩数の1 - 2%というマイノリティであるため、『双子・三つ子』に特化した相談は、おそらく相談する相手はなかなか見つからないだろうと、推察されます。



実行委員メンバー アンケート集計後感想

きよこ 感想

開始当初は、これほど多くの自由記述量を予想していなかった。結果、これほどの方から想いが寄せられたということは、吐露する場所がないということではないだろうか。父親の内に秘めた「子の人生に関わりたい」という想い。その当たり前の声が社会の当たり前となったなら。この声を力にし、全ての「子」の幸せを目指せる未来を築いていきたい。

うねきち 感想

ママの就業実態とパパの育休の実態。パパは育休を取りたくても取れない。でもママはどうしても取らざるを得ない。このアンケートでは単体、多胎に関わらず日本の社会通念では男性が育児に関わる事が難しい。ただ、育休を取れたパパの意見が育児に向き合えたという意見が多い。ここにヒントがあるのかな。

あさみ 感想

社会的な制度の問題に加え、日本古来の男性のイメージと最近の男性のさらなる家事育児への参加を求める声が混在している状態に、愛のあるパパたちのもどかしさを感じる。社会的制度やサービスの整備と並行し、『相手を受容する心を持つ』という一人一人ができるところからの改革も必要なのではないでしょうか。

なかはら 感想

家庭内での頑張りだけでは解決できない時期が、多胎育児にはあります。この時期に、人的・経済的支援があることで、子育てが愛に満ち、地域での暮らしに安心感がもたらされると思います。自由記述では地域格差も見受けられ、既存のサービスが多胎家庭でも使いやすいような発想の転換を求めています。

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

たまに思うのです 自分が信号のない横断歩道を歩いている そこに横から車が来る、止まる そこで私はちょっとでもいいから『手を挙げる』 このちょっとの感謝があることで、世の中はスムーズに流れるのではないか もっと許容できるのではない 心にゆとりを持ち、許容できる社会にどんどんなってほしいです

多胎児のパパが悩んで色々探し回ってたり着くのが、行政や地域の子育てサークル、先輩ママ、パパ等ではなくSNSだった現状。逆にいえばSNSがなければかなり追い込まれていたかもしれない。今の時代でよかったと思っています。

兎にも角にも経済的支援の拡充。少子化を問題視する割に、子育てをする環境が不足している。

世の中はもっと、パパの育児について強制的に育児に参加できるような支援をすべきだと思う。強制的に育休しなければならないとか。

多胎育児の過酷さ、親やまわりからの助けが皆あるわけでもなく仕事をしなきゃお金は入って来ない。だが、帰宅が遅く母親に任せ切りにどうしてもなってしまう。社会的に金銭的、育児支援が出来ればと思う。

成長の速度が違うことに対して、比べてしまうことがよくあります。双子といっても似ているだけで別の1人の人間として捉えていかないと感じています。 パートナー、両親、職場などの環境で、子どもを一番に考えるべきみたいな雰囲気や発言を受けます(双子なので特に)。育てる親も、子育てをする為だけにあるのではないので、親が自分の楽しいことを優先(夫婦生活など)しても間違っていないと思っています。親が楽しめているならば、気持ちにも余裕が生まれ笑顔で子どもに接することが出来るのではないかと思います。なので、子どもと親が安心して離れられるサービスが増えてくれれば良いと思います。ただ、子どもを育てるという責任は果たさないといけないとは思っています。

三つ子を妊娠したと分かった時は無事に産出できるのか、自分達で育てられるかなど不安が大きかったです、無事に産まれてきてくれて本当に良かったです。三つ子の子育ては想像してたよりも大変ではない気がしていて、それもこれも子ども達が良い子にしてくれているおかげだと感謝しています。今はまだ手のかかる時期ですが、子ども達のこれからの成長が楽しみです。

双子のパパになってから、他の家庭の育児に苦しんでいる方に対して、寄り添いたい。力になりたいという気持ちがとても強くなりました。赤ちゃんを育てる大変さは、とてつもないもので、経験した事のある人しかわかりません。けれど、この大変さで人はとてつもなく成長出来ると感じています。多胎児の親同士をつなげる事はとても大事な事です。しかしながら、多胎児でない親や、まだ育児出産もしていない人ともコミュニティ形成をする事ができ、お互いの困りに対して何かしら協力し合える事が出来るようになればもっと素晴らしい社会になると思います。社会の現状は、未来の宝である子育てを親に任せすぎだと感じています。親だから全部やって当たり前というのは、断じて違うと思います。人は支え合いながら生きていく生き物なので、助けてもらえないと生きていけない。というメッセージに対して我々こそが胸をはって感謝の気持ちを持って社会に訴え続ける事が、育児に苦しむ方はもちろん、その他の一人ひとりで苦悩を抱え込んでいる方も救うことに繋がると考えています。

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

仕事上、早く帰宅する事が難しいので、自分のマンパワーを育児には避けない現状がある。よって、育児のサポートとしてはお金を出して他人に来てもらうしかなかった。行政によるベビーシッター補助があれば良いと感じる。また、パパ育児も弊社では批判的なので、""多胎児は強制的に取る""等思いきった施策でないと、周囲の理解を得て取得が現実的に不可能だと感じる。

双子育児は1人育児より父親の援助は必要になると思います。ただ、どうしても父親は母親に比べると意識や能力に差が出てきます。その時に夫婦間でどれだけ話し合いやすい環境を作れるかが大事だと思います。お互いがお互いの主張を心の中で温めていても、すれ違いが大きくなるだけです。まずは相手の主張を受け入れ、落とし所を見つけていく「経験」を積み重ねていくことが大事だと思います。大体の育児の問題は、夫婦間コミュニケーションで解決できるのではないのでしょうか。

育休を取得したことで、産まれてからこれまで細かい成長を見れたことはとても幸せでした。妻と協力しながら育児や家事をすることで、お互いにストレスを感じることなく過ごせています。地域の方とも話ができる機会が増え、情報交換できたことがとても助かりました。外へ出かけるとたくさんの方が声をかけてくださり、元々人見知りの私たちからすればありえないことなので、子どもたちのおかげで輪が広がったなと感じています。また、多胎出産の厳しさ、病院の受け入れ体制など、1人の出産とは状況が全然違うことを知り、無事に出産してくれた妻に大変感謝しています。職場の上司にはいろいろ言われましたが、育休を取得したことで、多くのことを学びました。男性にも必ず必要だと改めて思いました。

双子育児、ほんとに辛い。本当に大変。虐待してしまう方の状況や気持ちもわかります。育児が大変だということを会社に沢山説明しないと理解してもらえないのも辛い。向こうに悪意はないと思いますが、育休取得することについて嫌味にも聞こえるような言葉も言われました。育休はもちろん仕事から離れてしまうけど、仕事を放り出したり無責任なことをするつもりはないのに！！こちらの気持ちを全然わかってもらえない！核家族であれば父親の役割は大きく、本当にしんどい。子育てに関われば関わるほどしんどくて、自分の首を絞めているようでもあります。仕事に逃げて家事育児に関わりたがらない男性の気持ちもよくわかります。1人でも育児は大変なはず。多胎だったり、早産、医療の必要性が高ければ尚更です！育休取得に理由や説明なんか必要ない世の中にしたいです！して欲しいです！

我が家の場合双子ということに加えて、2人とも若年発症の難病のため2歳になる前から通院やリハビリなどもあり、地域社会の支援の無さに苦しみながら夫婦で頑張っている状況。子供は未来の日本を支える存在なのにあまりに軽視されていることに怒りを感じる。頑張って稼いでも、一定の年収を超えると障害児のための手当もなくなり、双子で2倍の費用が必要ということなども考慮されない。現状を見る限り日本に希望は見出せない。

父親がもっと子育てに入れば、母親の選択肢が増えるし、何より家族の幸せにつながると思います。仕事を理由に子育てに参加しないのは、男の言い訳です。

アンケートありがとうございました。男性が育児に悩んだ時にSNSなど見てしまうと、もっと頑張れとか、ママは当たり前とか、なかなか辛い内容も多いですね。男性の思いに寄り添いながら、仕事との両立ができるような情報に溢れればと思います。

大変なのは大変であるが、自分達が望んで産まれた子ども達なので、家族全員で楽しんで行きたいと思う。

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

多胎育児は経験したものでないと、その大変さは分からない。また、家庭それぞれ悩みも違うので、経験者でも、分かり合えないことも多い。もっともっと、国全体、地域全体でのケアが必要と切に感じる。子は宝だと言う割に、まだまだ、冷たい世の中だと感じる。本当に妻には頭が上がりません。感謝の気持ちでいっぱいです。何とかして欲しいです。

行政に多胎児支援の充実を求めたい 特に産後しばらくの人的支援など

子育てを通じてパートナーと同じ愛情を共有できる喜びがあります。

父親としては、多胎児であるなしに関わらず、育児にどう関わるべきか悩むことは多いと思う。父親の場合は育児の主体になることは少なく、サポート的な側面が多くなってしまいが、母親の苦労感が強すぎて何をやっても足りないという評価になりやすい。社会的に、父親の育児に対して優劣を付けず、肯定的な受け止められ方をする風潮が欲しい。

子どもは自分たち夫婦の子どもです。妻に任せっきりにしない。それは家庭のことも一緒に、家事も任せっきりせず、一緒にやるところを子どもたちに見せることで、みんながwinwinになれます。男は仕事に行ってる間は仕事中心で家のことを考える暇がないです。これは育児の負担と比べたらかなり楽です。ずっと泣き続ける子どもたち相手に、気を落ち着けていられますか？ 仕事中に一時だけそういうことに出くわすことはあっても毎日ではないはず。貴方の奥様はそれに耐えて育児をしています。その合間に炊事・洗濯などの家事をこなしています。帰ったら『お疲れ様。今日も有難う。』から、一日の出来事（愚痴）を聞いてあげてください。知らない愚痴は聞き流せばすみます。自分と奥様があって、子どもたちがいます。一緒に楽しんで、一緒に泣いて、一緒に笑いましょう！

妊娠が分かった時も、産まれた後も、日本では大変ですね、と言われる事が多かった。海外にいる時に、見知らぬ人に話しかけられて、lucky youと言われて嬉しかった。双子が生まれてきてくれて、本当に嬉しくてありがたい。

眠れない、手が足りない、大変な時期は3歳まで。色んな支援を受けながら乗り越えれば、楽になってきた。

自分は幼い頃虐待を受け育ちました、なので自分の子供にも同じ事を繰り返すのでは無いかと不安でしたが生まれてきた2人を見ていく結果 ただの親バカになりました！ 2人の事を大切に想いすぎてるのでは無いかと心配するぐらいに大切に想い、奥さんには直接は伝えませんが、いつもありがとうと思っています。ただ、やはり自分が育児に参加する時間は少ないので、もっと子供と居たい等思う事が多々あります。双子とゆう事で何でも2倍になるので経済的、精神的余裕（奥さん含め）が不安になる事もあります。会社でも育休制度はあるものの現業勤務の人間には取りづらく中々難しい環境だと思います。

性別が違う二卵性の双子なので、双子、という感覚はあまりありません。ですので、色々なことを一緒にしないように、それぞれの気持ちを大事にしていきたいと思います。

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

双子育児の大変さ、楽しさを発信して認知されたい。SNSの双子親グループでも頻繁に投稿しているし、妻の所属する歴史ある双子サークルの会報でも、父親初寄稿したけど、やはり父親の反応は鈍いし、会社では多胎児育児の話をして、全く理解されない。

まだ双子は1歳。6歳の上の子はいるものの、双子にこれから先何が待ち構えているかはわからないこともあり、不安が残る…のが本音。何があっても「楽しむ」ことを意識してやっていければいいかな？と。育児に奔走してくれている妻と、さりげないサポートしてくれる長男に感謝する毎日です。

育児が大変だというのはわかるけど 最近はあまりにも父親方に対する風当たりの強さのほうが目立って見える。

もっと施設や金銭的な面で優遇いただければと思います。

双子の父です。双子育児は大変ですが、社会や職場は、なかなか理解してくれないなあと思う事があり、もっと理解して欲しいと思う事があります。双子育児は、父親がいかに関与するかで奥さんの負担が減りますので、これから多胎を授かる、絶賛育児中のお父さんは頑張って下さい！！多胎は大変だけど、幸せ度は計り知れませんよ？

長男が2歳児でまだまだ手のかかる時期であるが、次男三男が双子でも育児ができる母親が未就労という理由で保育園には入れてもらえない。夫(私)が育休明けの歳に不安しかない。

夫として父として最大限のことはしているつもりだがそれでも妻から応援を求められたりすると精神的に追い込まれそうになる時がある。双子の父親は仕事以外(休日含む)の時間は睡眠時間も削り全て育児や家事をする時間に当てたり妻を週に一回程度リフレッシュさせる為一人で双子の世話をするという状況は一般的なもののなか疑問に思う時が増えてきた。

出産時は育てていけるのか不安が大きかったが、現在10ヶ月となり成長し子供のできることが増えた喜びや声かけに対するの反応を感じ楽しさを感じるが増えてきた。

父親にも産休は必要と感じた。産後1ヶ月は満足に動けない妻だけではお互いに体を壊してしまうと思う。1ヶ月は父親も産休として手当を出し、その後は育児休業を取得するのが望ましいのではないかと。また、男性の育児休業を取得した企業には多額の給付を行うようにすれば、更に取りやすくなるのではないかと(その際には妻への聞き取り調査や、家庭訪問などでしっかりと夫も育児に参加しているかも確認する必要がある)

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

実家に頼らせてもらっていることもあり、病気にかかることなく元気に育てられていることが何より。保育園に入れるべきか、妻が復職せず子育てに専念すべきか悩んでいる

飲食店やその他の店がバリアフリーになって欲しい。双子のベビーカーが入れる店が少なく苦労する。双子もダメなら障害者(車椅子)の方も入れるところが限られているのではないかと思う。

もっと父親同士のコミュニケーションをとれる機会がほしい。

まずは父親目線でのアンケート、本当にありがとうございます。我が家は2年間の育休を取得し、妻と完全に二人三脚で二歳までの双子育児をしてきました。その実感として、世の中の父親が育児参加率が低いのは、父親のせいばかりではなく、地域社会が父親を育児から疎外している面も多々あると強く感じています。些細なことかもしれませんが、強くそれを感じたのは「母子手帳」という名称です。なぜ母父子手帳ではないのかと。まさにいまの育児環境を象徴しているように、ずっと感じていました。たとえば、妊婦検診では、母親学級がありますが、参加する父親は浮いています。出産後の定期健診や予防接種も同じで、双子なので片親では詰むため必ず一緒にいくのですが、保健所では母親にはメンタルチェックアンケートや問診がありますが、父親にはありません。呼ばれるのも「お母様方は〇〇してください」という感じで、まるで自分だけがその場にはいないような疎外感を常に感じていました。また、立ち位置もいわゆるママ目線に近くなると思いますか(パママという区分が適切かはわかりませんが)、普通の男友達やパパ仲間とは、育児に関しては話題が合わないことが多く、悩みや愚痴の共有はもっぱらママ友です。それ自体は楽しいのですが、たとえば夜泣きでしんどい時など、父親同士で共感し合える仲間がほしいという気持ちはありました。さらに、男は弱音を吐かないというような社会通念も、特に新生児期や夜泣き全盛期はつらかったです。めちゃくちゃしんどいのに、弱音の吐き方がわからないし、その場所もない。また、パートナー(女性)より強くあらねばいけないという自分の内側からのジェンダーバイアスもあり、強烈に追い詰められていました。一方で逆も然りで、父親は、母親が当たり前に行っていることをしているだけで加点評価されることが育児のなかでは本当に多く、妻にとってそれは居心地が悪いものです。たとえば、夫婦で毎日一緒に公園にいくだけで、僕は「いい旦那さんね」と言われるのですが、一緒にいる妻はいつもリアクションに困っていました。相手にそんなつもりはもちろんないのだけれど、妻からすると立つ瀬がないというか、あなたはラッキーですよ押しつけられているようで、「そうなんです、恵まれてるんです」というスタンスをとるしかなく、自分は世の中の母親と比べてだめな母親だと糾弾されているようで傷つく。「恵まれてるハラスメント」は、まわりのママ友にもわかってもらえず、孤独だと言っていました。我が家は、たまたま双子で、たまたま仕事も個人裁量が大きい職種だったので(マスコミです)、2年間の育休をとれました。おかげで復職した今も、当たり前夫婦二人三脚で家事育児ができていて、そのことを幸せに感じています。しかし、だからこそ違和感や疎外感に気づくことが当時から今も多々あります。社会が父親というリソースをちゃんと家庭に返すのと同時に、受け入れる家庭の側(行政、福祉サービス、幼稚園や地域コミュニティ)もまた、性差で役割を決めず父親母親をそれぞれペアレントとして位置づけ直す必要があると、強く感じています。この度のように多胎育児の父親の声をヒアリングして下さるアンケートや調査に出会ったのは、はじめてです。どうもありがとうございます。

仕事、家庭、子育て、プライベートなど全体のバランスを取るのが難しい。

双子のパパは最初にせまられる選択がハードだと思うが(経済面含む)、覚悟を決めてのぞむことと同時に自分も弱い存在だということ認識することが早いうちにできれば助けを求めることの抵抗もなくなり、夫婦で同じ方向を向けるのではないかと感じています。

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

国の子育て支援策は破綻していると思います。全てが所得金額基準で、どれも単一視点です。一定所得を越すと児童手当は減額され、保育料は高くなり、医療負担も高くなります。奨学金の資格もない場合もあります。現在、0歳の双子と2歳、9歳の子供がいますが、育休中の嫁さんだけで、保育園は育休中で延長保育はできず、昼間は一人で切り盛りできず、シッターさんを午後からお願いしており、保育料とシッターさんへの支払いで毎月約十万円くらいになります。税金も高校生未満の扶養控除がなくなり、所得税、住民税は独身者と同額負担になっています。所得制限をかける金額が低過ぎます、税負担しているのに子供に対する給付を廃止するのは、子育てに対する負担がさらに重くなります。やはり、各負担と各給付を総合的に制度設計すべきと考えます。今の子供達が将来の皆さんの年金や経済を支えるのに、支援を所得基準だけで一律に与えないのは疑問です。不要な人は受給を辞退してもらい、いつでも再申請できるようにすれば良いだけだと思います。

仕事柄（会社経営）時間を自分でマネージメントできるので、他の方よりは多く家事・育児に参加できていると思います。しかし、我が家は三つ子ということもあり、夫婦2人だけでは正直人手が足りないと感じることもあります。少子化対策の中に、多胎児を持つ家庭への「人的支援」を検討してもらえると助かる家庭は多いのではないかと思います。特に定期検診や予防接種などでどうしても移動が必要になる際に行政側がサポートしてくれるようになれば子育てもしやすくなると思います。

現在は妻の実家の近くで生活しているため、義父母の力を借りることができ助かっている。また、妻にとっても頼りやすくストレスの軽減にもつながっているように感じる。ただ、職場への通勤が1時間程かかるため、朝早く家を出て、遅く帰る生活のため、子どもとの時間をゆっくり過ごすことができないこと、妻の負担を少しでも減らしたいことなど悩みが尽きない。少しでも双子育児の大変さを理解していただき、様々なことを配慮していただくと助かります。

とにかく育児にお金がかかる。一人親と双子(三つ子)親で、同じ給料ならば、経済的負担が双子の方が大きい。経済的な援助(制度)が必要。

世の中の人、「双子ちゃんは同時に終わっていいね」と声をかけてきたりするが、精神年齢が同じ子を同時に育てる大変さは親にしかわからないと思います。自分は嫁さんの実家から職場に通ったり、仕事が終わってから実家に行ったりしてましたが、夜中の1時すぎに実家から戻ってきたり、朝5時に実家を出て職場にいたりして体力的にもしんどかった思い出があります。父親の言うことを子供がきき、子供が嫁の言うことを聞かないと、自分に怒ってあたってきたりしたことも。

職場としては残業・休日出勤・宿泊出張できる人を重宝しているだろうが、そこに価値を置かない社会になってほしい。

今さらながら、当事者意識に欠けていたと反省している。地域社会で子どもを育て上げるという雰囲気なくなっていることを感じる。

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

子供を授かる前の段階で、育児休業給付金だけで1年くらいは余裕を持って暮らしていける生活水準(と貯蓄)を維持することがまず第一歩だと感じました。出産前にそれを上回る生活をしていると、経済的に育休を長期で取ることは難しくなりますし、生活水準を下げるのは人間は容易ではないと思います。もう一つ、住環境のストレスをできるだけ減らしておく、育児をリラックスしてできると思います。私は昔から、テレビ(特に民放のニュースバラエティやCM)が宅内ストレスの大きな元凶であると認識していたので、テレビの無い生活を送っていました。子育てを始めてみて、改めて、テレビなしで良質な音楽だけをかけながら日常を過ごすことがストレス面で大きなプラスになっていると感じています。(いないいないばあなど教育テレビで育児に必要な番組は別途見られるような機器を持っています)

育児が大変、ということを知っていたが、実際するようになって、ほんとその大変さを実感している。わたしの育児はまだほんの一部に過ぎず、うちは妻がメインでやっているの、ほんと尊敬している。 自営のため、時間の融通もきき、可能な限り育児をしているが、いわゆるブラック企業勤務の父親で、育児がまったくできない家庭を考えると、ゾッとする。

コロナの影響が色々な面で不安です。まだ妻は妊娠中です。

多胎に関する情報が少な過ぎる。多胎児の出産、子育てに対して、行政からの支援などが少ないと感じます。また受けられる支援などがあるにしても、探せなかったり見落としていたりするのを細かくアナウンスして欲しい。もっと多胎のほか、複数の子を持つ家族への理解を深めて欲しい。多胎の親は公園へ行くこともできず、家に引きこもることが多いことを知ってほしい。それによって、行政への相談などに出向くこともできないことを知って欲しい。子供が一人の家庭と、多胎、複数の子を育てる家庭を同等に扱わないで欲しい。具体的にいうと、、、・出かけられないから、手続きなどは来て欲しい。・支援の内容は「母子手帳を見てください」「送られた書類を見てください」、「区役所に調べに来てください」ではなく、マンツーマンで細かく説明しながら手続きをさせて欲しい。妊娠自体初めてだった場合、子供が生まれた後の手続きも慣れておらず、見慣れない言葉ばかり書かれている書類などは、理解するのに時間もかかる。窓口へ行っても「ご存知ですよね」みたいな態度で手続きの説明をされるとついていけないだけでなくストレスです。また行かないといけないかと思うと、それだけでうんざりする。・当たり前だが、経済的な負担も二倍になる。保育園の料金も1.5倍くらいになるし、区にもよるが多胎はポイントに加算されなかったりする。

親になれたことに感謝の日々です。多胎の育児は他の育児より大変かは分かりません。でも時々、職場の人達にも理解してもらいたいことはあります。理解が広がって、育児しやすい世の中になることを祈っています。

オムツやミルクなど、どうしても金額がかさむ。また、揃える洋服なども買い足すと金額がかさむ。もう少し、金銭面での補助がほしい。また、病児保育なども地域にないので、保育園通いだしてから、妻の早退や休みが重なり、思うように稼げない。

各種サービスなど、年齢や時間など制限があり、利用できないことがあるため、受け入れ幅を広くできる世の中であって欲しいと感じる

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

多胎育児をしている父親への理解がもっと社会として必要だと強く思います。双子なんですー(自分) 奥さん大変ねー手伝ってあげやー(他人) なんて会話、何百回したか… 手伝うも何も、やらないという選択肢がそもそも存在しないし… 妻一人で乳児二人を見るなんて、そもそも不可能だし、病気になったらもっと大変だし。多胎とわかった時点で父親に1年間の育休取得を義務化すべきだと思います。

双子の父親です。収入の問題もあり特に収入補助的なサポートはありません。せめて市町村でミルク、おむつといった物のサポートは貰えるとありがたいと日々感じます。また今後成長に伴い、成長に見合うだけのサポートを双子にできるかわかりません。とにかく日本は双子以上にちっとも優しくない国と感じております

収入でひとくりに子育て支援が受けられないのは困る。どうしても制限したいのであればこどもの人数も考慮してほしい。

いつもありがとうございます。

父親同士の繋がりが少なく感じるので、繋がれる場所や機会があると救われるま感じました。

ママの頑張りには理解しているが、パパに対する偏見（家事、育児の参加が少ないなど）があるように感じている。仕事の職種や勤務形態などでどうしても家事育児に参加したくてもできない思いがあることも理解して欲しい。

社会や自治体が多胎育児に対する理解が低いと感じています。双子なら大変さは二倍と単純に思われてますがそんな訳はなくもっと大変なんだと本当に理解して欲しいです。また我儘かと思いますがもっと色々なことに多胎家族を優先させて欲しいと思っています。

子どもは可愛い。

パパっ子になってほしい

国が少子化と言いつつ、育児に関する保障、補填が追いついていなく、また父親の育児には未だ理解が足りないと感じます。父親ができないことは母乳を出すことのみで他は全てできます。書きたいことはたくさんありますが、とにかく言いたいこととしては、父親は母親にはなれませんが母親と同じことは出来るので、もっと父親が家に関わっていきける世の中になればいいなと思うところです。

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

双子の育児は、辛い分、他にはない双子ならではの可愛さがあります。また、育児の大変さを軽減させる為に積極的に行政サービス等に頼ることが大事だと思います。

普段よく関わる同僚には子供がいない人も多く、大変さを理解して貰えないことが多い。また双子の子がいる人が周りにいないので、双子ならではの大変さを共感出来る人がいない。

双子育児は大変ですが、妻を支えつつ、義父母、両親に助けをもらいながらやっています。悩んだことも多いですが、成長してくると子供たちに助けられることもたくさんあります。なかなか子育てのことを相談する機会もありませんし、ましてや双子パパも知り合いには多くないのですが、自分のライフワークバランスを考え直すきっかけにもなりました。ここまで産み育ててくれている妻には感謝の思いでいっぱいです。

今、生後2ヶ月弱で、嫁の実家で私含めお世話になっている状況です。嫁、嫁のお母さん、自分の誰かが疲れて倒れたりでもしたら育児はきつい状況になると思います。可能な限り育児に参加して、双子に愛情を注げればと思います。

ウチは4人目と5人目が双子の姉妹です。まさかの5人の子持ちになりました。今感じるのは、『多胎児にだけ優しい社会』ではなく、『全ての子育て世代に優しい社会』が必要ではないかと思います。障害児もいるでしょう。育児ノイローゼの親もいるでしょう。『多胎児』以外の問題も、包み込んでいかなければいけませんね。『多胎児』だけが課題なら、ベビーシッターや保育所が充実すれば概ねOKになっちゃいますからね。現実には、そんなにシンプルには行かないですね。

子供達が可愛くて仕方ない。一緒に遊んだり、お風呂入れたり、オムツ替えたりと当たり前のことをやっているだけなのに、偉いと言われて悪い気はしないが、他のパパはやっていないのか、できないのかと思ってしまう。先日子供が生まれた友達とリモートで話していたが、本当にパパのサポートは不可欠と言っており、それは当たり前ではとってしまった。私も育児をやっているつもりだが、パートナーにとってはまだまだとされているのではないかと不安になる。仕事で育児ができないことも多々あるので、パートナーには感謝の気持ちをちゃんと伝えるようにしている。子供達、パートナー、みんな愛しています！いつもありがとう、感謝でいっぱいです！

子育て支援制度を調べてみたが、利用時の予約が現地に赴かないとできないなど、外出のハードルが高い多胎育児にとって利用の妨げとなってしまっていると感じる。

自分が双子で生まれ育ち、母親が1人で育児が大変なのを知っていたので、パートナーへの思いやり、少しでも協力できる場所はしようとしています。双子育児は本当に大変です。私も新生児期の記憶が無いくらい忙しかったです。

双子をすぐ比較しないで欲しい。例えば、「〇〇はよく笑うのになあ(それに比べてもう1人は愛想があまりない)」など。

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

多胎児の場合に限らず、子育てを含めて家族と過ごすことは人生においてとても大切なことです。営利企業も変わってはきていますが、「従業員のための会社」というよりも「会社のための従業員」という価値観の企業がまだまだほとんどではないかと思えます。自分自身も古い観念に囚われていると感じます。多様な価値観、そして個人の自由がいつそう尊重される社会になることを切に願います。

私に限らず、多胎パパはみんな、自分も育児の責任者であって、妻と50：50で分担したいと思い、そのために必要な努力をしていると思えます。このことを大げさだなと感じられてしまう相手として典型的なのが、単胎で多子の、往々にして少し年上、妻専業主婦のパパです。育児に関する少しの世代差での考え方の違いや、世帯の中での責任感の持ち方、多胎ならではの育児の困難さなどがあっての行動決定を、生半可に育児を知った気になっている自称イクメンに「奥さんもっと頑張ったら」みたいに思われているのが最も心外なことだというように感じています。

会社としては育休制度があるが、職場によって取得のしやすさが違っており、人員不足もあって取得できない。また、考え方もまだまだ古く、男性が取得しやすい雰囲気ではない。

私の場合は初産が双子だったため、スキルや知識が全く無く、毎日が大変でした。個人的に子供が4歳くらいになってから、ようやく少しは子育てが楽になったと実感しています。出生数自体は年々減少していますが、多胎妊娠は増えているとのデータがありますし、多胎育児の本当の大変さは、経験しないと分かりません。今はSNSでも気軽に相談ができる環境が整っていますので、まずは親が孤独にならずに積極的に頼った方がいいと思います。

多胎児育児は父親は勿論、親族や地域、社会資源など、多面的なサポートが必要だと感じています。こうした育児支援の輪が広がり、築かれていくことで、育児への不安や悩みの解消、そして安心・安全に子ども達が健やかに育つ環境作りに繋がっていくことと思います。その点を踏まえ、自治体が多胎児支援により積極的に取り組んで頂けることを期待します。

我が家は五つ上に兄がいて三人兄弟です。祖母はどちらも遠方で「ちょっと見てもらう」ことができないので、何かあれば父親である私が仕事を休まなければいけません。幸い有給休暇は取りやすいのですが、職場には古い体質が残っていて、育休となるとまだまだ同僚の理解には温度差があります。私自身も育休は申請しませんでした。今後はもっと父親の育休がとりやすい職場にしていかなければいけないと思っています。

大変さは成長と共に変わり きついときもあるが 楽しんでやれていると思う。今は今しかないし 憎たらしくも、やっぱり、可愛くて仕方ない。

実際に多胎児の親になってみないと分からない苦労がありますが、それを周りに全て理解してもらおうとするのはなかなか難しいことだと思います。妥協点を早めに定めて煮詰まる前に自分を許してあげられる余裕を持って子供達と向き合いたいと思っています。こちらに余裕が少しでもあれば周りも余裕を持って接してくれるのではないのでしょうか？

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

多胎児に関わらず、男性の育休取得は社会的課題だと思います。育児、家事への参画が出来ていない家庭が多すぎます。仕事への傾倒が目立ち、バランスが欠如している父親が多いように感じます。育休取得の可否で悩んでいる方へ。重要なのは職場への相談ではありません。取得するという意志を伝えることです。なので、取得の書類を提出しましょう。それからどのようにするか（時期や、後任人事など）相談です。でないと、色々な思いが巡り、結局取得しないという選択をとりがちです。職場にとって、いかに重要なポストであろうが、特殊技能を持つのが替えは効きます。私が職場で初めてしっかりとした育休を取った事で後に続く先輩ができたことを嬉しく思いました。前例ができれば後の人も取得しやすくなります。子どもにとっては唯一無二の父親です。何のために働くのか、を突き詰めて考えれば必ずと答えはでるはずで。子どもたちの、そして奥さんの笑顔のために最良の選択ができるように頑張ってください。

定時退社ができる安定した職業に就いているため、帰って双子を風呂に入れたり、家事をしたりすることで、問題なく生活できている。一般的には、待遇面でそこまで優遇されている会社員は少なく、そうした家庭は本当に大変な思いをしていると思う。多胎児家庭支援の自治体サービスは少なく、さらに向上することを願う。（保健師や窓口に相談してくれと言われるが、意味のない返事しか戻ってこない）少しでも手間を少なくするために、様々な道具や家電に頼らざるを得ないため、そうした物品供給があると喜ぶ家庭は多いと思う。

無事生まれてくれたので腹くって育てたい。しかしファミサポなど役所などから言われるものは多胎ゆえ断られたりが多い。ヘルパーもしかり。ベビーカーを卒業したら移動難民で大変だ。また苦勞がわかる人はなかなかいないと思う

4歳の長男の下の子三つ子です。家族が多い事はとても楽しいですが、今後の長男の成長が気になります。私達両親よりも精神的な負担がかかるかもしれないので、そのフォローをする為に長男の精神的な変化や他児との感性の違い等を見逃さないように接したいと思っています。そうすると、どうしても長男と三つ子というような見方にもなりがちなので、三つ子達に1/3と思わせないようにも注意していきたいです。

子どもが5歳になり乳幼児の頃感じていた閉塞感は随分無くなりました。ただ現在その真っ只中にある方を思うと、当時夫婦で共倒れするんじゃないかという苦勞を思い出します。当時は地方転勤で誰も頼れなかったのも、。。誰かに還元出来るように自分にも何かサポート出来ることがないかと思ったりします。

コロナの影響で、多胎児サークルなどの活動が休止状態になり、多胎児向けのサポートを得る機会を失いました。多胎児を連れていっていると、自身も多胎児だという方、多胎児を育てたという方からよくお声をかけていただきますし、意外と多胎児が世間には多いのだと目につくようになりました。

多胎特有の悩みごとを共感をもって話せる相手がなかなかいないのは、辛いことだと感じます。話を聞いてくれる人はいますが、やはり同じ体験をした人にしか分からないことはあるので…。また、私は仕事で子育て以外の人間関係がありますが、妻は人間関係がほとんど無い状態になってしまっていて、どうしても孤独を感じるようです。どうにか新しい人間関係をつくってほしいですが、まだ3ヶ月というもあり、手が離せないのが難しく、辛いところです。

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

小さな会社なので、育休制度などまだ前例がなくとれないです。なかなか自分から言い出すのも難しいのも現実です。双子の妊娠は本当にサポートがないと大変だと思います。うちの妻は、常にハイリスクで安定期などなく、妊娠期間中はほぼ入院でした。コロナで大変な時期に更に経済的負担は大きかったです。

男性の育児介入について、寛容的な社会にならないと少子化は進んでいくと感じる。昔と違い、女の人が家庭に完全に入る社会では無いため、会社や地域がもっと理解を深め、制度を使えるように整えることが必要。

仕事をしつつ、パートナーと完全に二分して育児しているにも関わらず、父親であるが故に母親の方が育児によりコミットしていると思われる。父親でも育児にしっかりとコミットしている方も多はずなので、差別はやめて欲しい。

子育て支援について自治体のやる事が本当に必要なことなのか理解できないところが多い。たとえば、子供の病院で休まなければいけないときに有給を使わなければいけないのはおかしいと思います。そこは社会保険なり自治体から補償してもらいたい。

いずれも多胎に限ったことではないが、1)公的な支援が妊娠、出産、保育園、小学校…と一体的なパッケージになっていない。例えば育休取得中は上の子の保育時間が短時間になる、保育園と小学校以降で受けられる支援に差がある(夜間の預かり保育、短時間勤務制度の義務期間から外れる)等、不和を感じる。2)一体的なパッケージで提供されないが故に、それぞれの情報にアクセスできないに差異が生じる。なぜプッシュ型支援にならないのか。極端な例だが、多胎支援であるにも関わらず窓口に行かなければ支援を受けられないのは支援の目的を行政側が理解していないと言わざるを得ない。3)男性の長時間労働が前提となっている体制であるにも関わらず、男性の育児参入(育休取得の義務化、男性の家事育児時間の短さ等)の議論が補助事業や情報提供の義務化等の議論に終止するのか。どれも根本的な解決にならないことが歯がゆい。4)私自身も含めて、パートナーへの家事育児の負担がパートナーの自己実現の妨げになり得ることを、家庭や教育機関、企業を含めた社会全体が理解すべきである。

あらゆる面において性別により求められる役割が無くなればよいと思います。

育休のお金補助が満一歳までだと育休とりにくい。産後すぐは実家にいるので育休は必要なく、その後帰ってきてからが大変だが、そこからだと1年は絶対とれない。長期間とるためには育休取得してから一年間は必ずお金がでるなどの制度が必要。

外国人なのでこども園の手続きなど日本語が難しい。全て奥さんをお願いしているので、奥さんが大変そう。英語で双子の事、システムの事を教えてほしい。

子育ては大変です。だけど楽しいこともいっぱいです。

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

双子を持つ親は少ないため、多胎育児の大変さは社会的にまだまだ認知されていないと感じる(自分自身妻が妊娠するまであまり関心を持っていなかった)。私は比較的長期間育休を取得しているが、それでも育児でストレスを感じることも多く、自分の時間を作ることが難しいワンオペの方の苦労はとてつもないと思った。双子の親のLINEグループのように当事者同士が気軽に相談できる場合は貴重であり、今後も多くの方々に利用してもらえるとよいと思う。

小さい双子を連れて安全に遊びに行ける場所がもっとあればいいなと思います。双子ベビーカーで行ける場所が少なすぎます。

働きながら家事育児へ取り組む際に相談できる同世代の知人がいない。友人も父親である人は多いが、仕事優先で休日に子供と関われば御の字(奥さんもそう考えている)という人が多く、具体的な悩みは相談できない。また、仕事上の境遇とか、出世が絡む悩みは、家族や両親には共通理解がないので、一から十まで説明しても、なかなか分かってもらえず、孤立し苦しい思いを1人で抱えて耐えなくてはならない。それを子供は感じとり、ますます育児の悪循環となる。女性の社会進出の議論の際に、男性の家庭進出が取り上げられない不思議。ただ、男なのでひたすら耐えて育て上げなくてはならない、母親が抱く『命を守る』責任感とは別に『育て上げる』責任感が男性にはあると考える。命を守ることはもちろん、巣立つまでの経済的責任、躾とは別の教育というか説法というか人間性を養うための人道的責任、大人として恥ずかしくないという社会模範としての責任など、プレッシャーが多いと思うことがある。

子ども3人の一生の応援団長になりたい。

妻はめっちゃくちゃがんばっていますが、わたしは何もできず申し訳ないと思っています。おかげさまで子供たちは元気に育っているのでこのまま健康に過ごせるよう細心の注意を払い過ぎていきたいです。父親として何が出来るかを考えやって行きたいです。

男性が育児に関わるが増えてきているとは思いますが、まだまだ父親目線での育児について情報共有や悩みの相談をできる場所が少ないのかなという印象を受けます。育児は家族みんなで取り組むこと、ということが社会として当たり前になればいいなと思います。

大変ながらも楽しんで生活しています。

双子が一歳かその辺りまでは、自分は何をしてよいかよく分からなかった。臨月から10ヶ月間は実家に居候していたので、実両親がほとんどの世話をしてくれていた。その後、引っ越して四人で住んでいるが、昼間は妻が全て一人で見ていた。夜は、3歳半までは、妻が寝かしつけもしていた。3歳半からは、私と一緒に眠るようになり、妻が「とても楽になった。」と言っていた。休日など遊ぶことは、男親として一生懸命やっている。今は、子供の進学などの情報も特に熱心に集めている。我が家は双子なので、猫の手も借りたい状況だったので、私もできることや得意なこと(遊び、レジャー)を一生懸命やったり、今もしている。しかし、最近、近くの一人っ子の親を見ていると、子供と遊んでいないで携帯ばかりいじっている親が多いように感じる。一人っ子でも多胎でも、親が子どもと遊ばないのはどうしたことなのか?疑問に思う。もしかしたら、多胎の男親の方が、一人っ子の男親よりも、積極的に育児参加しているのではないかと、思う。一人っ子の家庭の方が、人では足りているはずだが、実は親(男女とも)が育児に無関心であれば、子供は寂しい思いをしているかもしれない、と最近感じている。

父親としてのあなたの思いをご自由にお書きください。(110回答)

書類やイベント名が全てママなのが参加しづらい。

子育ては、夢中になれば、本当に楽しく、自分の人生が豊かになり、幸せを感じられるものだと思う。だから、もっと多くの人が子育てに、家族に没頭できる世の中になれば良いと思う。本来「仕事」というものは、世の中の幸せを増やすために行うべきものだと思うが、多くの人は、そんな「仕事」はできていないように思う。会社の仕事を通じて、多少はどこかの誰かの幸せに貢献していると思うが、一方で自分と目の前の家族を大いに犠牲にしているように思う。家族を差し置いてまでやらなければいけない仕事など、本来存在しないし、それでは、世の中の幸せの総和は増やせていないと思う。まずは、家族の幸せに貢献し、自分も楽しく幸せに暮らせる世の中にしたいものだと感じる。

子どもを育てるのがこんなに大変だとは思わなかった。事前に知識として知っていたとしても体験してみないとわからなかったと思う。なので職場の人には双子育児の大変さは伝わらないのではないかと。もっと男の人にも子どもの育児参加に寛容な社会になればと思う。

日本の少子化対策に向けた政策には不満がある。幸いにも5人の子に恵まれたが、妊娠の報せには家族ができるという喜びよりも、毎回経済的不安が重荷になっている。出産を増やすための政策も重要だが、出産後の子育て期間への補助を求めたい。幼保無償化は市場競争を阻害し質の低下も招きやすいので、子育て世帯への支給金の一律増額や多胎や多子世帯向けの経済的援助が欲しい。慢性的な経済的不安から長時間労働や職場復帰を早めることも余儀なくされていると感じる。

体力の削れる双子育児のこと、妻のこと、義理の実家との関係のこと、仕事のこと、コロナのこと、色々なことを背負っても、日陰で黙々と日々のタスクをこなしているお父さんの多いことかと常に思う…。現在の日本社会では、父親はまだ子育ての主役にはなれない。一方でイクメンブームもあり風当たりは強まる。そんな中途半端な状況だからこそ葛藤が今の多くのお父さんの心中にはあるのだと思う。